

令和元年度入学生用 カリキュラム・マップ

教育学研究科 共同教科開発学専攻

教授会等承認日(報告日):令和2年11月5日

学位	博士(教育学)												ディプロマ・ポリシー(DP)		
付属情報													共同教科開発学専攻		
	大区分	中区分	小区分	詳細	必修選択	科目コード	授業科目	単位	開講種別	授業目標	DP1	DP2	DP3		
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目			愛知教育大学静岡大学	必修	37010010	教科開発学原論	2	講義	本講義は、教育環境学と教科学を統合した学としての教科開発学を構築しようとする背景と目的を明確にする。教科開発学における「教科」とは、既存の教科科に囚われず、新たな教科観の開発・創造という意味合いも込めている。教育環境学は、学校環境だけでなく、地域・社会・文化を含んだ幅広い視点からの教育環境の研究の発展を目指す。教科科学は、教科専門と教科教育の融合による教科内容構成の研究の発展を目指すものであり、教育論、教育内容論、教材論という三つの基本軸からなる。 新たなこのような新しい学問として教科開発学を確立していくために従来の教科教育研究を中心にした研究と教科開発学との差異、教科開発学の定義・特色等、教科科学と教育環境学の構造的連関をどうとらえていくかを明らかにしていく。 この基本問題を検討するために、4名の教員の専門分野を基に教科学分野という視点でこれまでの自己の研究成果をふまえながら、その基本問題に関する考察を試論的に提示する。これらの講義を通して教科開発学の学問方法論の知識を得ると共に、領域横断的な学術的知見や理論を修得していく出発点とする。 教科開発学実践論では、教育事象を共有化し、実践を理論化する方法論等を受け、学校教育の実践を理論化し、また、その理論を指導に生かす能力を身につける。 学生は、教員養成系大学の教員等で活躍することが期待されているために、大学教育段階における教育実践をも視野に入れて、教科開発学における実践上の課題の把握、大学教員としての教育実践力、教員FD等、実践的講義を追求する。 そのため、各受講者のこれまでの研究を、教科開発学の視点から構成しなおし、それについて発表をし、受講者および教員全員で議論する事で、上記の狙いを達成する。 文化資源を、それぞれ異なる視点から取り上げることにより、複眼的な視点を養うと同時に、文化の根源に迫ろうとしている点が特徴である。 1)物語論による分析方法を用いて、小学校国語教科書教材を分析します。教材分析を通して、国語の授業について考察します。 2)戦前の地理教育制度や教科書を取り上げ、今日の地理教育の課題について講義します。また、各教科の小中高一貫カリキュラムについても検討します。	◎	◎	◎		
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目			愛知教育大学静岡大学	必修	37010030	教科開発学実践論	1	講義		◎	◎			
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目			愛知教育大学	選択	37010050	文化資源活用論	1	講義		◎	◎	◎		
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目			愛知教育大学	選択	37010070	科学技術活用論	1	講義	1)自然科学と科学技術との関連について、STEMやSDGsなどの教育課題を連携させながら、科学教育が小学校に果たす役割や、科学教育が育成すべき資質・能力がどのように科学技術に貢献しているのかについて概観する。 2)現代物理学の基礎は量子力学にあり、半導体やレーザーといったテクノロジーは量子力学の発展の上に築かれたものである。本講義では、量子力学の原理がどのように科学技術に応用されているのかについてその概要を理解する。 3)算数・数学ではどのような考え方を、学校教育では扱われることが少ないが、子どもたちが興味をもてる教材を通して理解する。	◎	◎	◎		
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目			愛知教育大学	選択	37010090	教育評価実証方法論	1	講義	授業では、はじめに受講者の研究テーマについて、パワーポイントを用いて発表してもらう。その後、各教員の授業を受講する。各教員の授業内容は、以下の通りである。 1)心理学における基本的な研究方法(データの収集法、相関的研究と実験的研究法、尺度の信頼性と妥当性、因子分析等)について概説する。また、各受講生の研究について、内容や方法等について発表して検討する。 2)幼児教育学、保育学、子ども学の分野における実践的研究者と研究的実践者の立場から、対象(乳幼児、保育者)を理解し、分析研究する方法、それを研究として昇華させるための研究方法を学ぶ。受講者の研究背景や状況に応じて、学際的な視座から、定量的(量的)な研究方法、定性的(質的)な研究方法、混合研究方法などの中からいくつかの具体的な方法を取り上げ、先行研究、文献講読、研究成果、事例を通して学ぶ。同時に、既存の諸科学で自明の理とされてきた思考の枠組みや方法、レトリックを批判的に検討してみる。 3)健康科学の立場から学校での実践論文をもとに、研究方法(分析方法等)と研究結果(まとめ方)について取り上げる。	◎	◎	◎		
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目			静岡大学	選択	37010110	教育プログラム開発論	1	講義	教育プログラム開発論は、学校での授業の計画・実施あるいは分析・評価と同時に、高等教育機関において教育に従事するための、授業開発に関わる知識を学ぶものである。前半は、教育実践研究に必要な、研究上のアイデアを提案化する方法、データを収集し分析する方法、提案化のためのノウハウを学習する。また、教科開発の基礎となるカリキュラム経営の考え、キャリア教育等のカリキュラム開発に関わる具体的な内容・方法などを学習する。	◎	◎	◎		
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目			静岡大学	選択	37010130	表現・鑑賞論	1	講義	係であり、常に同時発生的に進行する創造性豊かな思考過程である。この授業では、そういった表現と鑑賞の思考過程を芸術学と認知科学を融合させた学際的な観点で整理し、芸術教育のありかたについて考察するもので	◎	◎	◎		
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目			静岡大学	選択	37010160	教育フィールド調査論	1	講義	本授業では、教育現場をフィールドとして研究を進めるときに必要なデータ収集と、その分析方法について学習する。	◎	◎	◎		
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目			静岡大学	選択	37010170	教育プレゼンテーション論	1	講義	素晴らしい研究成果が得られたり、役立つものを開発したりしても、その内容を相手に上手く伝えられなければ、妥当な評価を得ることが難しくなる。「発表内容が質的に優れていること」と「その内容を適切に伝達できる能力」の両方が備わって初めて、良い研究が完成したと言えるであろう。この授業では、人前で自分の意見主張するプレゼンテーションの重要性を認識することから始め、どのようなプレゼンテーションがよいのか、どのようなプレゼンテーションがよいのか、その具体的な方法を学んで行きたい。また、専門領域(例えば、理科系か文科系か)によるプレゼンテーションの相違についても話し合いたい。加えて、英語によるプレゼンテーションの方法も学んで行く。	◎	◎	◎		
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	教育環境学分野科目	愛知教育大学	選択	37020070	遊び文化環境論研究	2	講義	現代社会における子どもの遊びは、昔と比べてかなり変化している。この状況は、遊びそのものの変化・留まらず、様々な影響を子どもにも与えている。本講義では、現代に生きる子どもたちの問題を遊びとの関わりから考察する。また、遊びによる子どもの社会性への影響や、教育とどのような関わりをもつかについて話し合う。その上で、遊びがもつ可能性について、グローバルな視点から文化の創造との関わりを考える。具体的に、1. 子どもの遊びがどのように変化しているか、過去から現在について概説する。 2. 現代の遊びが、子どもにどのような影響を与えているか事例をあげて述べる。 3. 遊びにより身に付く様々な力が、教育にどのような影響を与えかねを推察する。 4. 遊びが文化を創造するとの視点に立ち、遊びのもつ可能性について考える。 本授業は講義であるが、授業の中でディスカッションの時間をもち、教員から受講生へ一方の授業にならないようにする。		◎				
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	教育環境学分野科目	愛知教育大学	選択	37020140	教育経営臨床論研究	2	講義	授業/教育課程・学級経営・学校経営の実践・行為研究において、理論・実践・実証を一貫させることは教育実践科学にとって重要なことであり、その方法論をAction Resaeerch/Ed.D.論に求めている。Action Research とは、第一人称的な自己実践を改善するための行為研究であり、これを量的・質的に検証していく。これを現段階では未完成ではあるものの、将来的にはEd.D.レベルまで高めたい。よって、本科目では特に以下の2 点を念頭に置く。 1. 教育方法学・カリキュラム学等から研究対象を設定し、適切な実証対象(授業論・学級経営論等)を取り上げ、これをAction Research の視点から検証を進める。 2. 教育経営学に焦点化して「理論と実践の融合・往還」を具現化する意味で、カリキュラムマネジメント、及び学校改善論のPDCA をふまえながら、コミュニティースクール(サービスクーリング)、小中一貫学校、及び組織改善のリーダーシップ論などを取り上げる。		◎				
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	教育環境学分野科目	愛知教育大学	選択	37020150	学校適応論研究	2	講義	学校の適応について、児童生徒の動機づけという観点から検討する。		◎				
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	教育環境学分野科目	愛知教育大学	選択	37020190	教育哲学・思想論研究	2	講義	教育と呼ばれる事象や、教育に関する私たちの見方・考え方は、歴史的、社会的に条件づけられ制約を受けた形で成り立っています。その制約の外に出ることは最終的にはできませんが、その制約を問い直すことによって、教育と呼ばれる事象に対する私たちの常識的なとらわれを抜け出し、現実を別の見方のもとで捉える可能性を探求することが出来ます。この授業では、西洋近現代の教育思想あるいは教育にかかわる思想を手がかりとして、その思想に関わる知識を理解するとともに、私たちが教育と見なししている事柄を問い直す視点や姿勢を習得することを目的とします。		◎				
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	教育環境学分野科目	愛知教育大学	選択	37020210	保育・幼児教育学研究	2	講義	幼児期の教育とは何か。何を目標とし、その達成に向けて具体的などのような内容・方法で実践していくことが適切なのか。なぜ、その内容・方法が適切なのか。明治期以来の日本の幼稚園教育を中心に、その教育理念や実践方法、それらを支える保育制度の変遷をたどるとともに、現代の幼児教育の「内容」・「方法」・「方法」・「制度」・「特徴」・「問題点」をめぐって、保育のあり方について検討したい。また、具体的な実践として好きな遊びの例を挙げながら、質の高い幼児教育・保育についての考察を深めたい。		◎				
共同教科開発学専攻	専攻分野科目	教育環境学分野科目	愛知教育大学	選択	37020310	教育方法・内容論研究	2	講義	カリキュラムは、政策・制度であるという点において政治的であるだけでなく、授業において教えー学ぶ行為として展開される過程においても政治性を不可避に抱え込む。授業では、マクロな政治性に規定されながら、他方で教師ー教材ー学習者のコミュニケーションの中で自律的に政治性を生み出している。授業づくりの課題は、教えー学ぶ関係に生起するポリティクスを読み解き、それをどのように組み直し、より公正・平等な授業を展開していくのかにある。 今年度は、「多様性とカリキュラム」をテーマとして、社会構造的、学習論的、授業論的な検討を行う。その際、多様性をカリキュラムに反映することが極めてポリティカルな問題をはらんでいることを前提に、「なぜ、今、多様性が重視されるのか?」「多様性を学校のカリキュラムに反映することが可能なのか?」を主要な論点として、理論的、実践的に検討していく。 授業は、事前に配布した文献についてのディスカッション形式で進めていく。文献ごとに報告担当者を決める。この報告担当は受講者数にもよるが複数回担当することになると思われる。		◎				
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	教育環境学分野科目	静岡大学	選択	37020110	学校危機管理論研究	2	講義	リスク認知、リスク論やクライシスマネジメント研究の現状を踏まえた理論的な視座と学校での事件・事故事例の実践的な検討を通して、学校現場における危機管理の現状と課題についての理解を深めるとともに、後半では、演習形式を通して研究上の問題意識を深めるとともに、研究上の方法論や視点を身につける。		◎				
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	教育環境学分野科目	静岡大学	選択	37020130	教育工学論研究	2	講義	教授という意図的な行為に偏して、工学的にアプローチする。現状を分析して課題を発見し、目標を立て、解決策を立案し、実行していく。目標達成に至る方法を習得することが第一の目標である。また、複数の事例の検討を通して、教育システムを意図的にデザインする方法と留意点について習得することが第二の目標である。		◎				
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	教育環境学分野科目	静岡大学	選択	37020250	看護実践教育学論研究	2	講義	看護実践の歴史や制度・看護実践・教育等からみる看護の捉え方を文献及び昨今の研究から追究する。それらをもとに、看護実践のあり方について考察し、看護学の構築に向けての理論構築を図る。 1. 看護実践の歴史と実践の現状について、歴史的背景や、制度、看護の概念や機能の視点について、文献及び昨今の研究から考察、分析し理論構築を図る。 2. 1を通じて、看護実践教育のあり方と看護実践教育の研修課題についてについて分析し考察する。		◎				
共同教科開発学専攻	専攻分野科目	教育環境学分野科目	静岡大学	選択	37020270	特別支援教育学研究	2	講義	特別支援教育に関わる研究分野について理解を深めるとともに、優れた先行研究などに触れることを通じて、その利用方法を学ぶ。後半は、自身の研究を用いて、具体的な方法や進め方について検討を深めていく。		◎				
共同教科開発学専攻	専攻分野科目	教育環境学分野科目	静岡大学	選択	37020290	情報教育学研究	2	講義	本授業では、ICTを活用した教育・学習について、教育工学、情報教育学の観点から検討する。授業の前半では、教授理論や学習理論、ICT活用などを具体的に学び、授業の後半では、演習形式を通して自らの博論における教育実践への応用について考える。		◎				
共同教科開発学専攻	専攻分野科目	人文社会系科学分野科目	愛知教育大学	選択	37030030	言語教育内容論研究	2	講義	言語政策を概観し、言語教育における様々な課題解決のため、教授法、教材等を開発し、教育現場のニーズに対応した言語教育の内容を創造し、それを実現するための言語教授法の開発を行う。ここで扱う言語教育とは、英語教育、日本語教育等の外国語教育、及び、外国籍児童生徒に対する母語保持教育、帰国児童生徒の日本語教育等の母語教育を含む広い言語教育を指す。 まず、現代言語教育の中で特に日本語教育に関わる日本の言語政策についての動向を概観し、それを基礎として外国籍児童生徒の日本語学習、日本適応、母語保持、受験進学等における課題や教師の役割を具体的に検討する。また、英語教育に関して、初等・中等英語教育、及び、高度英語教育のプログラムの開発研究の基礎となる理論や実践方法を学ぶ。ただし、受講生の専門分野や博士論文のテーマに関連づけて、上記の授業内容の焦点や重点の置き方を調整する。 授業では、受講生が本授業から得られて知見を生かして、各自の博論の内容を精緻化、再構築する。そして、セミナー、Ⅱ等での発表を射程に入れたプレゼンテーションを作成し、他の受講生と共に検討する。また、本授業では、この時間の学会、研究会等への参加・討論等のフィールドワークも含めることもある。		◎				
共同教科開発学専攻	専攻分野科目	人文社会系科学分野科目	愛知教育大学	選択		民族学教材論研究	2	講義	地域社会の人々の生活の中から問題を見つめ、その人々に関わることをより資料を引き出して研究を進める民俗学的手法をとおして教材開発論を講述する。そして、社会科だけでなく、国語科、理科、美術科、音楽科などの教科にもかかわる民俗学教材から、既存の教科の枠を超えた「同時代生活誌」(現在という同時代の生活に内在する歴史や伝統を描き出すことにより地域社会の未来を構想する内容構成)という新たな領域の開発・創造の可能性を検討する。 全体を通じて、受講者自らの民俗調査・研究により獲得された高度な一次資料をもとに既存の教科の枠を超えた教材を開発・創造することへの理解を深める。		◎				
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	人文社会系科学分野科目	愛知教育大学	選択	37030090	地理学教材論研究	2	講義	地理学における野外調査の技法を各地理学分野の先行研究による座学と実際のフィールドでの観察などから理解することによって、①(地理)を観る目を養い、②社会科の内容である地域事象をフィールドで理解し、その仕組みを解き明かしよう能力とともに、③それらを構造的に把握して教材を開発する視点を養うことを目的とする。具体的には、教科専門としての地理学における基本的概念と地理学の基本的構造を理解し、それを社会科や防災教育における地域教材開発へと転化して授業を構成する力量との関わりから教科開発学における教科専門と教科教育について考える。		◎				
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	人文社会系科学分野科目	愛知教育大学	選択	37030140	国語科教育教材論研究	2	講義	講義のテーマ：文学教育における読書行為の研究 GIGAスクール構想、ICT教育といったように、学校教育ではデジタル化が推進され、児童・生徒たちもほとんどがスマートフォンを所持し、多くの時間を費やしている。一方で、児童・生徒の言語力、読解力の低下が懸念されている。そのような状況をふまえて、戦後の文学教育を振り返りつつ、言語論・文学理論を参照しながら、言語力・読解力育成のための文学教材の読みについて、読書行為論の観点から考察する。 学習指導要領の変遷をたどりながら、生活科創設の趣旨、生活科の目標、内容、方法、評価について検討し、親学問をもたない生活科という教科の本質と独自性についての認識を深める。さらに、生活科教育と総合的な学習の課程のつながりについて、実験学校のカリキュラム理論と教育実践だけでなく、アメリカにおける子供の参加理論、および、サービス・ラーニングの理論と実践についても考察し、現在の生活科及び総合的な学習のカリキュラム及び授業実践を批判的に分析し考察する知識と能力を習得する。		◎				
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	人文社会系科学分野科目	愛知教育大学	選択	37030150	生活科教育内容論研究	2	講義	この講義では日本の公立小学校における英語教育の在り方に関する理論的側面と実践的側面を扱う。具体的には、2020年度から導入される中・高学年の外国語活動と高学年の英語教育の研究について、指導者養成、指導内容、指導方法、カリキュラム、評価、中学校・高等学校へ繋がる英語教育のあり方等、様々な課題に対する研究を扱う。また、文献や授業ビデオ等や受講者の討議等を通して、小学校の小学校英語の理解を深め、実際の場で活用できるようにすることを目的とする。		◎				
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	人文社会系科学分野科目	愛知教育大学	選択	37030165	外国語教育内容論研究	2	講義	言語習得理論を修得しつつ、教室現場ではどのように外国語が学習されて行くのかを理解する。また、外国語教育における現代的課題への解決方法を模索して行くことも大きな目的である。まず母語はどのように習得されるのか理解して行きたい。次に、外国語習得(又は第二言語習得)の発達過程を考察して行く。日本の外国語(英語)教育政策、特に「英語が使える日本人の育成」政策にもふれながら、外国語習得研究について、1960 年代以降から断片的に概観して行く。対照分析仮説、創造的構架仮説に注目しながら、1960 年代、70 年代を振り返りたい。次に Krashen のインプット仮説に焦点を当て、彼の理論の功罪について見て行く。1980 年代以降は、習得理論追求指向と実践指向の2 派に大きくわかれ、両者の考え方をあわせて行く。そして、これまでに発表された2 世代の研究論文のいくつかを概観して行く。以上の論考を踏まえ、外国語はどのように教えていくと効果的かを検討し、最終的には実際にデータ収集をして行く。 次に、外国語教授法研究の基礎として、言語習得の研究成果を実際の教授法や教育プログラムの開発にどのように応用していったらよいかの基礎知識を養いたい。具体的な授業計画としては、これまでに日本の外国語教育で困難におこなわれてきた、語彙指導、文法指導、そして4 技能(聞く、話す、読む、書く)の指導方法が、本当に効果的なものであるのか批判的に検討し、受講生自らが実証的にデータを収集することで、より良い教授法を開発して行く手助けをする。さらに、テスト問題作成を含む評価についても触れて行きたい。		◎				
共同教科開発学専攻	専攻基礎科目	人文社会系科学分野科目	静岡大学	選択	37030130	歴史教材論研究	2	講義	日本近現代史を中心に、その輪となる政治史を見据えながら、文化、マインデリティ、地域社会を視野に入れ、既存の教科書の検討を踏まえ、歴史教材として何が求められているのかを考察し、自らも歴史文(資料)を読み解き、それを教材にしよう力を養う。前半は講義形式、後半は研究発表・討論を通しての演習形式で行う。		◎				

